

前橋ランナーズ様 会報 417号 (2018年10月号) より抜粋

ホームページ <http://maerun.ie-yasu.com/>

会員の投稿コーナー

あかぎ大沼白樺マラソン大会」で倒れる！ 清水秀俊

—死地からの生還の記—

8月26日「あかぎ大沼白樺マラソン大会」は私にとって人生の“大事件”の一つになりました。20 kmコースの15 km地点を小須田会長と笑顔を交わしながら通過した後、17 km地点で異変(胸が押される感覚と同時に目の前がぐるぐる回りだしました。)を感じた直後に意識を失いました。心肺停止3分だったそうです。

とても幸いなことに近くで走っていた5人のランナーの方に心臓マッサージをしていただいたおかげで生き返ることができました。

命を救ってくださったランナーの方にはどんなに感謝しても感謝し切れません。本当にありがとうございました。(5人の方のお名前を教えていただいたので、お礼の手紙を送らせていただきました。)そしてランナーズの皆様にはたいへんご心配をおかけいたしました。改めておわび申し上げます。

救急搬送された前橋赤十字病院で治療をしてもらいながら今後も諸々の検査(カテーテル検査も含めて)を受けました。その結果、「冠攣縮性狭心症」と診断されました。ただし、あの倒れていたときに私の心臓に何がおこっていたかは特定できないそうです。ですので、ICM「植え込み型心臓モニター」という診断機器を9月19日に胸部に植え込み心電図を継続的に記録しています。また、薬で狭心症を予防しながら諸々の検査を継続的に受けてゆく予定です。

おかげさまで9月5日に退院してからも体調が良く、まずまず元気に生活しております。

実は今年の2月頃から胸部に圧迫感があり内科の先生に通院しながら経過を見ていた中での今回のでき事——大会に出たこと自体が無謀だったと痛感しています。「無理は禁物」という言葉が身にしみました。救っていただいたこの命を今まで以上に大事にしていこうと強く思っています。

私のこの体験が少しでもお役に立てばと思い寄稿させていただきました。

註：死地からの生還の貴重な体験記録を投稿いただきました。編者は清水さんの4周目だよと最終回の笑顔の給水から僅かな2 km余・10分余後の体調の異常で生死の境界を体験したとは、給水の手渡しもこんなことは全くの想定外でした。しかし AED や心臓マッサージ等の非常事態に対応できる人達のことも、これも走る文化の集積と思いました。